

神の母聖マリア

世界平和の日

ルカ 2・16-21

2024.1.1 11:00 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

今年も、この地でわたしたちが神の民として、イエス様がこの世界を導いていらっしゃるその福音の証しを様々なレベルですることができますように、共に神様の前に恵みを願いたいと思います。

今日、一月一日は、冒頭にも申し上げましたが、「神の母聖マリア」の祭日であると同時に「世界平和の日」です。教皇様は毎年この「世界平和の日」にあたって、教会に[メッセージ](#)を出されています。全文読むことはできませんけれども、今年の世界平和の日の教皇メッセージは最新のテクノロジーAI（人工知能）と平和っていうテーマです。わたしたちがもう既に社会生活の色々な面においてこの人工知能の影響を受けている。しかも意識しないところで受けている。非常に注意しなければならない、いろんな商業的な、また政治的な選択を、自分の自由にしているようだけど、しかし、インターネットを通して色々なそれが誘導されているっていう、そういうことも現実にあるわけなんです。科学技術の発達っていうのは、人類の色々な苦悩を取り除いてきたっていう、そういうありがたい面があると同時に、人類そのものの生存を脅かして、この共通の家またお互いの繋がりを危険に晒すっていう、そのことも意識しなければならない、と教皇様は言ってるわけです。

でもその中で特に人工知能のいろんな問題に対して、倫理なき開発と使用っていうことがないように、一人ひとりがデータに置き換えることができない固有の尊厳を持った者である、そしてまた、人と人とは兄弟愛っていう一番大切な基準をもとにお互いを見なければならない、そういう基準の上に開発や利用っていうことがなされるように国際的な合意を求める、というのがこの年頭のメッセージの非常に大雑把な内容ということになるわけですけども、わたしたちのそれぞれの生活の中でも関係あるような一つのこととして、教皇様は、やっぱり目先の利益に結び付かないものはこと

ごとく切り捨てるっていう、そういう傾向、それを改めなければならないということをおっしゃっています。

それは、テクノロジーとかの開発やそういうのに携わる人たちだけではなくて、わたしたち一人ひとりの生活、また、教会の方向性っていうことにも当てはめて考えることができます。直ぐに効果がある、あるいは求めているもの得ることができる、そういうことではないもの、例えば祈りっていうのは直ぐにわたしたちはその効果を実感できるとは限らないわけです。神様のみ手の中にあるし、また、神の御前で正しく生きるっていう、そのことそのものも、それを通してわたしたちが、教会全体としての、また一人の人間としての、この世に希望の明かりを灯すという、そういうことは直ぐに手ごたえがあるということではないかもしれない。だけど、目先の利益に結び付かなくても、誠実に生きることを通して、神様がわたしを、またわたしたちをお用いになるんだという、その思いは絶えず忘れてはならないんだらうなあと思うんです。

その上で、人間は被造物として死に定められているということから、死を免れないということから来る、人間には限界があるっていう意識を持つことが大切だと教皇様はおっしゃいます。全て自分の思い通りにしようとしてテクノロジーをどんどん追及していくっていうことは、かえって自分たちをテクノロジーの支配下に置いてしまう、全てを支配しようとして自分たちが支配されるっていうことになるんですよというわけです。それはテクノロジーについてだけではない。わたしたちの人生観についても顧みる必要があると思います。全てが完全でなければ気が済まない、自分の健康も、周りの人との関係も、いろいろな人生の計画も。そうではなく、わたしたちは限界があることを意識する。その時に、わたしたちが満たされていくっていうことは、頂くものなんだという感覚を持つことができるでしょう。

^{じゅうまん} 充満という言葉が教会の、教皇様とかの文書では良く出てきます。充満って満たされるって言うことです。わたしたちはマリア様への祈りの中でいつも「アヴェ・マリア、恵みに満ちた方」というふうにお祈りしています。でも「満ちた方」っていうのは実は自分で満ちたんじゃない、満たしたんじゃない。神様から満たされているっていう、そのようにして恵みに満たされる。それは、自分自身が全てコントロールできない、そういうものである。神様のみこころに委ねる。そのことを通して満たされているっていうのが、マリア様の——今日は神の母聖マリアの祭日でもあるわけですけども——マリア様のお姿の中に示された、人間が恵みに対して開かれている姿なん

です。恵みに対しては自分で色んなことをコントロールして獲得しようとしていくうちには、わたしたちが自分自身の欲望の奴隷になっていくっていう、しかし神様に委ねるときにわたしたちは満たされるっていうことを頂く、とういようなことをこの社会とかテクノロジーのことだけではなくて、一人ひとりが今の生き方、また考え方について振り返ってみる必要があることを、教皇様のメッセージは考えさせてくれます。

今日、年の初めにあたって、神の母聖マリアのごミサをお捧げしておりますけども、そのマリア様の取り次ぎのうちに、またその生涯に示されたマリア自身の信仰の歩みを見つめながら、わたしたち自身の、自分自身の今の在り方を、そして一人ひとりの望みを神様のみ手の中に委ねることを通して、恵みに満たされていく、そのために取り次ぎを願いたいと思います。

いろんなことが直ぐに結果として、手ごたえとして見える、そのことのみを追い求めるのではなくて、教会としても個人としても神の前に誠実に歩むっていう、そこに意味を見出すわたしたちでありますように、信仰者でありますように、取り次ぎのうちに恵みを願い合いながら、このごミサを通して神様との一致の恵みを頂きたいと思えます。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

j携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>